

令和6年第8回清瀬市教育委員会定例会会議録

令和6年第8回清瀬市教育委員会定例会が令和6年8月23日(金)午前9時00分に招集された。
出席委員、議事の概要は次のとおり。

- 1 日 時 令和6年8月23日(金)午前9時00分
- 2 場 所 研修室1・2・3(清瀬市役所本庁舎4階)
- 3 付議案件 別紙議事日程のとおり
- 4 出席委員 坂田 篤 (教育長)
宮川 保之 (教育長職務代理者)
尾崎 啓子 (委員)
鈴木 美紀 (委員)
中村 清人 (委員)
- 5 事務局 大島 伸二 (教育部参事兼教育指導課長)
大野 英武 (教育企画課長)
宮本 央子 (教育企画課学務担当課長)
宮野 将史 (教育指導課教育支援担当課長)
久保 淳 (指導主事)
横井 路彦 (指導主事)
- 6 書記 若野 俊佑 (教育企画課主事)

令和6年第8回清瀬市教育委員会定例会

令和6年8月23日（金）

研修室1・2・3（清瀬市役所本庁舎4階）

定例会

- | | | | |
|------|------------------|---|-------------|
| 日程第1 | 会議録署名委員の指名（尾崎委員） | | |
| 日程第2 | 教育長報告 | | |
| 日程第3 | 教育委員報告 | | |
| 日程第4 | 議案事項17 | 令和7年度使用 清瀬市立中学校教科用図書の採択について | 教育部参事 |
| 日程第5 | 議案事項18 | 令和7年度使用 清瀬市立小・中学校特別支援学級教科用図書の採択について | 教育部参事 |
| 日程第6 | 報告事項1 | 清瀬市立学校における食物アレルギー対応基準について | 教育企画課学務担当課長 |
| 日程第7 | 報告事項2 | 清瀬市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（令和5年度外部評価）について | 教育企画課長 |
| その他 | | | |

議事の日程並びに議事の概要並びに議決事項

開会

坂田教育長が開会を宣言

日程第 1 会議録署名委員の指名（尾崎委員）

坂田教育長 尾崎委員を指名

日程第 2 教育長報告

坂田教育長 後述（※2頁）

日程第 3 教育委員報告

なし

日程第 4 議案事項 17 令和7年度使用 清瀬市立中学校教科用図書の採択について

大島教育部参事 提案理由として、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第十三条並びに地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号の規定に基づき、令和7年度より4年間、清瀬市立中学校で使用する教科用図書について採択をしていただく必要があるため議案として提出させていただきます。

今回審議いただく中学校の教科書は現行の学習指導要領に基づくものである。ただし、この度の採択する教科用図書は、経年による調査データの更新やGIGAスクール構想の流れを踏まえて、デジタルコンテンツを追加されていること。さらには、令和3年1月の中央教育審議会答申で示された令和の日本型学校の実現を目指すといった喫緊の課題や、社会的な話題を踏まえた修正が加えられている。調査の経過については清瀬市立小中学校教科用図書採択要綱に基づく調査を行った。また中学校教科用図書調査委員会を開催し、独自に調査研究を行うとともに、都教育委員会が独自に取り纏めた調査研究資料についても事前に教育委員にご覧いただいている。さらには市内3館の図書館に教科書の見本本を展示するとともに、市民の方々を対象としたアンケートを実施し、合計31件のご意見をいただいている。

坂田教育長 調査委員会における調査の説明について教育支援担当課長より説明を求めます。

宮野教育支援担当課長 今回、同調査委員会では11教科の教科用図書を調査して研究している。国語4社、書写4社、地理4社、歴史9社、公民6社、地図2社、数学7社、理科5社、音楽2社、美術3社、保健体育4社、技術家庭3社、外国語6社、道徳7社の教科書を対象として調査研究を行った。今

回の調査では、清瀬市教育総合計画マスタープラン及び本市の生徒の実態を踏まえ、内容の選択、構成分量、表記表現、使用上の便宜、人権及びその他の6つの観点で調査研究を行った。各教科、発行者ごとの詳細は資料を参照していただきたい。

坂田教育長

※（教育長報告として）今回の採択は、学習指導要領の全面改訂がないなかでの採択となるが、本市においては、①令和の日本型学校がいかにより具現化されているかという視点、②本市の子供たちの学力向上のためのあらゆる方策を探り出すという視点、③学び続けるべき存在としての教育委員といった3点で多くの時間をかけて教科書の調査研究を行った。保護者の方にとっては学校教育を理解する1つの材料として、教科書関係の皆様にとっては、教科書の質的向上に活かしていただけるといった願いを込めて議論を重ねていくつもりだ。

日程第 5 議案事項 18 令和7年度使用 清瀬市立小・中学校特別支援学級教科用図書の採択について

坂田教育長

中学校教科用図書見本本に関する全般的な質問を受け付けたい。

宮川職務代理

この度、改定されなかった教科書についても、議論の中で話題にしてもよいか。

坂田教育長

よい。

国語
(1回目)

尾崎委員

教科書を調査研究するうえでの私なりの視点について先に申し上げたい。学習指導要領も参考としながら、学習方法がよくわかるというところ、学ぶ生徒の学習意欲が湧くかという観点を中心に教科書を拝見した。光村図書はレイアウトに落ち着きがあり、学びやすい印象。言葉との出会いについてメッセージがあるのがよい。「学びへの扉」というところがわかりやすく、生徒の学習意欲が湧きやすいと思う。挿絵がイメージを邪魔しない。教材をどのように読めばよいか解説されているが、詳しくすぎることはなく、生徒が自ら考える余地があつてよい。

東京書籍はおさえるべき基本的なところを満遍なく網羅している。ただし、取り上げられている教材について少々難易度が高いように感じる。

中村委員

保護者の視点として、子供の興味関心が湧き立つような内容であるか、楽しく取り組めるような紙面であるか、QRコードの工夫などがあるか、適切な情報量であるかという視点から教科書の調査を行った。

光村図書は言葉の力で未来を切り開く課題解決の力がつくと感じる。充実したデジタルコンテンツ。レイアウトが少々見づらいが、掲載している著名人のメッセージがすっと入る。

東京書籍は「未来への扉」という2つのテーマを設定して様々な観点

で学習ができる。古典についてはゲーム感覚で取り組めるような工夫があって、楽しく取り組める。本への興味関心が沸き立つようなレイアウトの工夫があった。

鈴木委員

採択の基準としては主体的対話的で深い学びになっているか、知識・技能・表現力・判断力をおさえているかを基準とした。そのうえで光村図書を提案する。

光村図書の強みは「言葉」。コミュニケーションの基本である「言葉」を大事にしている。コミュニケーションに必要な表現力は、他教科にも広がる基本的な力である。

どの教科書にも子供たちが興味・関心を持つことができる工夫があると思うが、教科書を学ぶのではなく教科書で学んでいくためには光村図書がよい。

宮川職務代理

私は東京書籍を推したい。東京書籍は子供たちが小学校からの学びをどのように中学校で活かすことができるか、探求のプロセスがしっかりと説明文から読み取ることができる点で評価した。1年生最初の教材として「朗読の世界」を採用し、言語化力を高めることがその後の各教科の学習にも好影響をもたらすと考えた。清瀬の子供たちのこれからのあり方を考えたときに、東京書籍が良い。

坂田教育長

教科書には「感動」と「創造性」という2つの要素が必要。子供にとって教科書はできれば見たくないもの。その中で思わず手に取ってページをめくるような感動があることが大切である。

そのうえで教科書の中で、キャラクターが多用されていることは好ましいことではない。思考力・判断力・表現力を伝えていくためには、しっかりとした創造性に基づいて教科書が構成されているという事が必要である。

議論の結果、国語については光村図書と東京書籍の2社が候補に絞り込まれた。後ほど決議をとりたい。

書写

(1回目)

中村委員

東京書籍は書くことを楽しいと感じてほしいと考えるコーナーがある。そのレイアウトに引き込まれた。

光村図書はデジタルコンテンツにより、2つのアングルで姿勢を確認できる。手書きの良さを考えるきっかけとして漫画を用いて説明しており、子供たちにとって取り組みやすい内容となっている。

上記より、2社を提案する。

鈴木委員

全社とも、小学校で習った筆の持ち方や姿勢等について復習しながら書写の大切さを教えている感想。

光村図書は書写の片付けまで説明している。デジタルコンテンツも充実している。書写だけではなく、硬筆や楷書のことを取り上げられている。

以上より、光村図書を提案する。

尾崎委員

国語の教科書との関連性を考慮し、光村図書、次点で東京書籍を提案する。

光村図書は情報量が多く、小学校の学習内容が復習できるところ、生活に活かす視点といったところがよかった。

東京書籍は資料が見やすく実用的である、生活に広げようというところがよい。

順位をつけるとすると光村図書、次点で東京書籍である。

宮川職務代理

光村図書は筆先と腹の動きやひらがなの平結びと三角結びをイラストでしっかりと説明している。

東京書籍は腕の動きまで写真で示している。

第一候補に光村図書、第二候補として東京書籍と考えている。

坂田教育長

光村図書は文字というのは文化であることをしっかりと伝えている。

東京書籍は活動で終わってしまう書写ではなく、子供たちに自ら考えさせようという工夫がみられる。

上記より、光村図書を第一候補としたい。

以上の議論より、書写については、光村図書と東京書籍の2社から後ほど1社に決定する。

地理

(1回目)

鈴木委員

どの教科書もSDGs等の時事的な見方や考え方を取り入れていた。

なかでも、帝国書院は各頁にあるコラムが読みやすい。単元を通じて学んでいくことがしやすい。振り返りにおいても、主体的対話的な課題について「アクティブな地理」という考えがよい。

尾崎委員

帝国書院は写真の配置レイアウトが非常に美しい。地域との結びつきや、防災の観点も見られる。学習の振り返りのページでは書き込みができることで、重要語句の確認や対話ができ、お互いに考えを深める働きかけができる構成になっている。主体的な学びとしての振り返りのコーナーがあるのがよい。地図帳の活用方法もわかりやすい。

中村委員

帝国書院はイラスト、レイアウトが親しみやすい。その点を第一に評価する。

東京書籍は印象的な写真を採用し、地域の姿を映し出して子供たちの興味関心を引くような紙面となっている。

宮川職務代理

学習指導要領の社会科において示される見方考え方を働かせるという場面が教科書でどのように具現化されているかについて重きを置いて調査した。

そのうえで、東京書籍の教科書は、地理的な見方考え方として人間と自然とのかかわりや他地域との結びつきなどを重視していることや、地図との関連性も鑑み第一とする。

坂田教育長

地図と地理は密接な関係があるので同一社のほうがいいのではない

か。東京書籍と帝国書院の2社を中心に比較を行った。

東京書籍はキャラクターがたくさん出てくる。コミュニケーションマークが複雑で分かりにくい。

帝国書院は東京書籍のような複雑さがなく、すっきりとしている。

上記より、帝国書院を提案する。

以上、地理については帝国書院と東京書籍が候補に挙がっているので、後ほど議論を深めて1社に絞る。

歴史

(1回目)

宮川職務代理

歴史的な見方や考え方を働かせた学習活動をどう具現化しているかという視点で調査を行った。また、その内容と構成、さらには学習過程をどのように設計できるかを中心とした。それは個別最適な学びと言われる子供たち一人一人に応じられる工夫があるかどうかということ。また、どのように子供の興味関心を引き付けるかということである。

東京書籍は上記内容をしっかりとおさえている。子供たちが力を付けられるプロセスを教師も共通認識を図ったうえで授業を展開することができる。令和書籍の教科書は、443 ページと他の教科書と比べても分量が多く、探究するテーマもあってよいが、古代までの日本といったところにページを割いており、世界史的分野との関連がやや弱いと分析している。

帝国書院はタイムトラベルといった部分で見方考え方について統一的に示されている。学習指導要領に沿って必要な力をつけるといった視点に立てば、教科書のバランスが大事になってくるので、課題を感じる。

以上の点から、教育出版や帝国書院、或いは日本文教出版を考慮しても良いと思う。

尾崎委員

どの出版社も面白く、個性がある。学びやすさといった観点を加えると、現行の東京書籍が一番良いと思う。

東京書籍は巻頭に「私たちはなぜ歴史を学ぶのか、それは私たちの未来を考えるために歴史が必要となるからである」と明記されており、そこから環境エネルギーや人権・平和と広い観点から歴史を捉える工夫がされている。仕様上では「みんなでチャレンジ」などの思考ツールや対話が弾むようなツールなどの工夫がよい。

鈴木委員

歴史の流れを子供たちがどのように考え、どのように現在とつながっているかを学ぶかという視点で調査を行った。

教育出版はその点からいうと、「歴史にアプローチ」(8ページ・9ページ)で歴史の見方・考え方と学習の進め方が分かりやすく示されている。写真等の配置もよい。

東京書籍は「みんなでチャレンジ」で対話的に進められることで、子供たちはただ授業を聞いているのではなく、考えを互いに伝え合うこと

ができる。各単元導入では写真や絵を用いており、子供たちの興味関心を引き付けられる工夫がある。しかし、歴史上の人物が漫画チックに描かれている点に違和感を覚える。

中村委員

私は東京書籍を提案したい。

東京書籍は子供たちが歴史に興味関心をもてるような工夫として導入動画やQRコードがある。鈴木委員から発言のあったキャラクター年表のことについては、小学校で習った人物を中心にした年表になっていた。子供たちが知っている人物を面白おかしく書いてもらって、どの時代を学んでいるのかということが一目でわかるように、工夫されている点なのかなと思う。確かにキャラクターを使いすぎている部分も感じる。

坂田教育長

従前では、歴史の知識を増やすことが良いとされてきたが、現在は違う。歴史を解釈しながらストーリーを作っていくといった力が求められる。帝国書院はそういった点がしっかりと考慮されている。しかし、各ページにある問題が多すぎる。子供の考える力を逆に奪ってしまう。QRコード等に移行するとよい。

東京書籍について漫画チックな部分に反対である。一方で各ページにある設問の数がすっきりしている。

令和書籍は読み物のような教科書。内容はともかく、こういったようなものもあっても良い。歴史の流れがすべてわかるが、中学生にとってはレベルの高いものである。

東京書籍と帝国書院、教育出版より絞り込みを行いたい。

公民
(1回目)

鈴木委員

東京書籍がよいと思う。

東京書籍はどの教科においても、学び方、使い方がしっかりと示されており、対話を大切にしている。導入として身近なグローバル問題等を資料や写真を用いて説明している。その後にチャレンジで対話をし、研究して、深めていく流れがよい。少し解説的で文章が多いところもあるが、支障のない範囲である。単元ごとの課題設定が明確であり、単元を統一的に学びやすい。

中村委員

東京書籍を提案する。

誰でも見やすい統一されたレイアウトとなっている。学習課題や探求課題をつなぐ短期のステップを設けることで段階を踏んで、課題解決ができる構成になっている。社会を考える取組により、子供たちが未来を考えるきっかけを与える工夫があるところがよい。

宮川職務代理

現行の東京書籍でよいと考える。

東京書籍の構成に着目すると、学んだことを活かして身近な問題を解決しようとする、いわゆる公民としての見方・考え方である対立と語彙

や、個人尊重と法の支配などをおさえている。子供たちが学ぶということは、社会にある様々なことを自分事として捉えることであり、この教科書でそれを実現しようとしている。また、30 ページ・31 ページ「現在の学校でのトラブルについて考えよう」というような部分は学校経営や特別活動にも直接関連するような大事な学びだと思う。

尾崎委員

東京書籍を提案したい。

「よりよい社会を目指して」という観点が非常に明確になっている。学びの流れとして、まちの課題から生活への影響、課題解決のために探求課題というような流れで学びやすいと思う。グローバル化や少子高齢化などの大きなテーマについて、統計で示されているということ、学習の振り返りで学びを深めようというコーナーも対話的学びにつながるのではないか。

坂田教育長

私は東京書籍と帝国書院を比較した。冒頭のカラーページというのは子供たちがはじめに開くページとなるので非常に重要である。その観点でいえば、東京書籍は社会問題でまとめている。

一方で帝国書院はSDGs でまとめている非常に好ましい。しかし、カラーページを導入ページと思わせない、これをベースとして学習していくというような学習活動へのつながりを持たせるといった点で、東京書籍にアドバンテージがあると思う。

地図
(1 回目)

尾崎委員

帝国書院がよいと思う。地図で発見というところで地理的な見方考え方を働かせることができる。問題が多数設けられており、何を子供たちに学ばせたいかが明確である。またSDGs についても考察できる構成となっている。

鈴木委員

帝国書院がよい。地図が誰でもわかるような読み取りやすい特徴的なものとなっている。198 ページと非常に情報量が多い一方で統計資料等も見やすく構成されている。

中村委員

帝国書院がよい。地図のイラストが見やすい。冒頭にSDGs などの社会的課題が丁寧に紹介されているところもよい。東京書籍はデジタルコンテンツが充実しており、気候や宗教の分布等、子供たちにも楽しめる内容であったが、比較すると帝国書院が優位である。

宮川職務代理

内容でいえば帝国書院と東京書籍では差異はあまりない。そうであるならば、教科書である地図との関連や理科との関連を考えて採択をすべきと思う。

坂田教育長

帝国書院は東京書籍と比べて目が疲れる。黄色のコントラストが明瞭すぎる。ただし、日本を他の大陸や、国から見た視点で書かれている。これは多面的なものの見方を子供が学ぶといった意味では重要な視点が詰まっている。この点からしても帝国書院の継続採択である。

数学
(1回目)

- 鈴木委員 東京書籍がよい。子供たちが3年間で何を学んでいくのかがわかる。巻末の「数学の目で振り返ろう」がよい。自由研究や補充問題も充実している。
- 中村委員 東京書籍がよい。算数から数学へのつながりがとても丁寧。数学という苦手意識を持つ子供が多い印象なので、つながりを明示してくれているのがよい点だと感じた。さらにコンテンツも充実しており、自学自習にも使用できる。日常生活との関連性を意識することができ、キャリア教育の形成にも寄与する内容であった。
- 宮川委員 東京書籍、その次に文教出版としたい。数研出版はキャラクターが好ましくない。清瀬市の小中連携教育の観点からも学びを振り返る場面などの見方考え方をしっかりとおさえている点で、現行の東京書籍でよい。
- 尾崎委員 現行の東京書籍でよい。子供たちがつまずきやすい単元において、丁寧に数学的な考え方へいざなっているところが学びやすいのではないか。また補充問題で発展的な学習が行えるようになっているところもよい。
- 坂田教育長 東京書籍を提案する。0章の扱いが丁寧である。ほぼすべてのページにデジタルコンテンツがついていて繰り返しの演習ができる。数学では東京書籍1社ということになる。

理科
(1回目)

- 宮川職務代理 啓林館なども考えてみたが、現行の東京書籍でよいと思う。
ただし、9ページにその実験の際に起こり得る場面をイラストに変えたものがあるが、何が(どこが)危険なのかが分かりにくい。
結論は東京書籍でよい。理由としては子供たちにどんな能力を育てたいのかということで、仮説を立てる力、問題を見出す力などをしっかりと整理している。
- 中村委員 東京書籍と啓林館で比較をし、東京書籍を提案したい。
どちらも子供たちが興味関心をもちながら意欲的に学習に取り組める点でよいが、東京書籍はキャリア教育へつながっていくというところが評価できる。
- 鈴木委員 東京書籍がよい。
導入として、身近な自分の疑問からという部分の構成、スケッチの仕方等手書きで書かれていた部分がよい。
- 尾崎委員 現行の東京書籍でよい。啓林館も巻末の探求も評価できる。
- 坂田教育長 各委員の意見に賛同し、東京書籍を提案する。

音楽一般

(1回目)

- 中村委員 教育芸術社を提案したい。
自分にとって音楽とは何かということを考えるきっかけとなる。様々なジャンルの関連性が示す図がわかりやすく、子供も楽しく学習できる工夫がなされている。
自分の好きな音楽をプレゼンテーションするような紙面もよい。
- 宮川職務代理 教育芸術へ採択替えを検討した方がよい。音楽と器楽ともに、音楽の見方考え方の基盤となる音楽を形づくっている要素の8項目を各単元や教材に併せて示している。学習指導要領が改正され、子供たちに見方考え方をどのように働かせるかといった視点で見直しを検討すべき。教育芸術は音楽と国語の関連性について学ぶことができる。
- 鈴木委員 教育芸術に採択替えを提案する。
指揮の仕方の図が分かりやすい。器楽についてはQRコードが豊富である。琴で言えば、演奏している様子が様々な倍速で見られる。教員目線で、早い倍速で見たときに授業で使用するかしないかを素早く判断することができる。
- 尾崎委員 私も結論としては教育芸術社がよい。教育出版もよい。
教育出版は感性を養うことや、イメージを湧き起こすような選曲と説明がされている。
教育芸術社の方には、義務教育9年間を通じて音楽科で何を学ぶかという目標に迫れるように設定されている点や、学習内容の示し方、評価の観点などがわかりやすい。
- 坂田教育長 教育芸術社がよい。
前回の採択では構造的に明確な教育出版を採択した。しかし、改めて教科書を見直すと、冒頭に示される教材が1年生にとって適切ではない。すべての楽曲にQRコードがついた。不満点としては、表現の工夫の題材で、QRコード内に範唱が格納されている点である。子供のイメージが固定されてしまう。

美術

(1回目)

- 尾崎委員 開隆堂と光村図書で迷っている。光村図書は身の回りの美しいものに気付くというコンセプトが明確になっていて、作品鑑賞や作品作りについてわくわくする工夫がなされている。たとえば風神雷神図では余計な説明もなく強いインパクトで目に入ってくる。迫力が素晴らしい。現行の開隆堂にも良さがある。教科書の真ん中に伊藤若冲の鳥獣戯画図が大きく取り上げられており、作品の雰囲気を感じられるが、説明が多いので全てを絵にしたほうがよい。
- 鈴木委員 私も開隆堂と光村図書で迷っている。光村図書は写真がふんだんに使用されており、そこからどのように表現するかといったつながりがある。

開隆堂は表紙がよいと思う。手で触ると質感があって、感覚的なものを美術で伝える表紙だと思う。

中村委員 今までは開隆堂がよいと思っていたが、2名の委員意見を伺い、光村図書も良いのではないかと感じている。

開隆堂は表紙を見て触って楽しめる工夫があり、視覚・触覚で楽しめるものとなっている。また、自画像のところでは3つの視点で理想の自分から見た自分ということで多感な時期である中学生にとっては自分を見つめる大事なきっかけになる作品だと感じる。

宮川職務代理 開隆堂を提案する。例えば、自分と向き合うという教材では、多感なときにある子供たちがいわゆる自己概念を学ぶ機会になる。自分から見た自分、他人から見た自分、今ある自分、この3つの自分をきちんと整理できる。今、子供たちが自分自身を強く思い、そして対等なコミュニケーションができるようにするには、自分自身をどう見るかという自分自身をどういうふうに表現するかということを、こういった体験を通して、お互いの事をよりしっかりしたものにしていくような、そういう授業が必要だと考えるからである。

坂田教育長 どの教科書も甲乙つけがたい。冒頭にも申し上げたが、教科書は感動を生まなければいけない。開隆堂の教科書は紛れもなく感動を覚える。触覚で美術を感じることができる。

保健体育 (1回目)

中村委員 大修館がよい。見開きのページが見やすいところや、データやイラストなど、内容が充実している。さらに、様々な分野で活躍されている著名人によって多様な共生社会を考えるきっかけとなる内容が含まれている。

宮川職務代理 大修館または東京書籍に採択替えをしたほうがよい。内容的には大修館がより良い。学習構造が三層構造となっており、課題把握・課題解決のための思考判断、そして振り返りといった構造になっている点が評価できる。

尾崎委員 学研と大修館のどちらも良いと思う。学研はレイアウトがシンプルで見やすく、説明文が分かりやすい。また、私の専門であるストレスの対処法について見ると、紹介が非常に適切で大事なことが簡潔に示されている。大修館はやはり説明が丁寧。中村委員もおっしゃっていたコラムに特徴や工夫を感じる。いじめや自己形成のコラムでは著名人を取り上げており、身近なものに感じられる。相談場所の紹介についても充実していたので大修館もよいと考える。

鈴木委員 学研と大修館がよい。大修館は見開きでの説明がわかりやすくよい。LGBTQについても詳しく記載されている。学研については、学研にしか取り上げられていない大事な事項が書いてある点は評価できるが、色使

いで目が疲れる。より生徒の事を考えてもらいたい。

坂田教育長

皆さん同様、大修館を採択したい。

5 分間休憩

技術・家庭

(1 回目)

坂田教育長

技術と家庭については同一教科書の方が望ましいことから、セットで議論をしていきたい。

尾崎委員

各社良いがセットと考えると開隆堂が良い。技術分野では SDGs の目標実現のためにできることは何かというようなコンセプトが明確であること、説明内容が生活に沿っているなど、親しみやすく理解しやすい内容になっている。

家庭科分野では学びの観点、自立し、ともに支え合う生活へという非常に大事なメッセージを表紙に載せているところがとても良い。生活課題の見つけ方や安全な実習方法などのガイダンスが非常に充実している。また、家族や家庭のとらえ方、多様性の説明なども中学生に寄り添う視点で書かれており、学びやすく大事なことである。

鈴木委員

開隆堂が良い。見開きになっていてわかりやすく授業が進められるという点が評価できる。どちらも生活課題に取り組むところが非常に具体的に取り組みやすいと思う。この教科における安心・安全はより大事なもののだが、そこについても言及されているところは評価できる。また、家庭科の QR コードを読み取ったが、左利きの方への配慮も感じられた。

中村委員

私も開隆堂を提案する。理由も 2 人と同様、イラストが視覚的にわかる工夫があり、子供たちが主体的に学べる内容になっていると思う。東京書籍だが、家庭科の授業の流れが変わっており、最後に家族表示についてのテーマが取り上げられているが、この 2 社とどういった考えの違いがあるのかと個人的に気になった。中学 3 年生は、学ぶタイミングになるが、子供たち、進路等をより深く考える時期だと思う。幼児教育、保育の大切さを学ぶことが教育や保育、生命、興味関心を持ってキャリア形成に繋がるのではないかと。

宮川職務代理

私は教科書の内容作りから見て、例えば東京書籍は、テーマごとに考え方をきちんと示している。それから学んだことを社会に生かすといった構成になっているところが最適だと思いつつも、開隆堂は 312 ページ、教育出版は 316 ページ、東京書籍は 291 ページとボリュームについても併せて考え合わせていく中で、内容的には大きな差があまりないと感じる。しかし、強いて言えば開隆堂の家庭のところ、総ページ 312 ページの中で、家族とか家庭生活の分野に随分多くのページを割いている。これからのニューファミリー、すなわち新しい家族像、その地域との関わりについて重点的に扱っているというところは、清瀬の子供たちの学

びとして必要であると考え。東京書籍と開隆堂を提案する。

坂田教育長

開隆堂を提案する。子供の学び・育ちの基本は家庭である。しっかりと家庭を作っているような資質能力、家庭のすばらしさを子供たちが育むことが必要であろう。そこはやはり一番丁寧に取り扱っているのが開隆堂である。

外国語
(1回目)

鈴木委員

外国語も東京書籍がよいと思う。自己紹介の学習が長いと思うが、写真が多く学びやすいのではないかと思う。しかし見た目が気になる。少し色がビビット過ぎていないかという思いはあるが、どこを1つ推すかといえば東京書籍になると思う。

尾崎委員

私も東京書籍がよい。光村図書も良いと思っていた。コミュニケーションのための場面設定が非常に豊富にあり、そのコミュニケーションを通して文化の理解にも役立てて進めていけるといって光村も捨てがたいなと思う。

一方、東京書籍は作りが丁寧で、子供たちが関心を持ちそうな内容やテーマである点や、例文が少し多めなので、学ぶときに参考になる、また文化や世界との繋がりが自然にわかる構成になっているところが魅力的である。しかし、特別支援の観点からも、カラフルすぎて発達特性のある子供は集中しにくいのではないかなと思う。特に最初の方のページでもう少し色を絞り、写真を減らすなどしていただけるとありがたい。

中村委員

私も2人の委員と同様、東京書籍を推したいと思う。光村図書についても中学校でよく起きる出来事や日常会話などを例文で出しており、楽しめながら取り組める内容になっている。

一方、東京書籍は、紙面レイアウトが生徒に親しみやすく、デジタルコンテンツが充実していたり、解説動画なども楽しめる内容であったり、よりわくわくして学べると思う。あと生徒が成功体験を積み重ねることができるようアニメやクイズなどを利用する工夫などがあり、ステップを踏んで学んでいけるのかなというところがいいなと感じた。

宮川職務代理

継続採択でよい。

坂田教育長

私も結論を述べると東京書籍の継続が妥当であろうと思う。現在、外国語について大きな課題があると現場から話が出てきていないということや学習の継続性を考えても現在の継続採択でよろしいのではないか。

道徳科
(1回目)

宮川職務代理

現行の東京書籍がよい。東京書籍は扱う題材が、いじめの問題、或いは生命尊重、自己肯定などを基調にしている。また、読み物教材として、「NHK-for-school」をうまく紙面に落とし込んでいることや、授業中に

考えたことを書き込めるスペースにより思春期にある子供は自己内会話・自己評価ができる。確かな成長に繋がる。ここが東京書籍の良さとして評価できる。

中村委員

私も東京書籍を提案したい。まずコンテンツが充実しており、「NHK-for-school」が教材の内容に落とし込まれて、紙面でも動画でも、子供たちが進んで取り組めるような工夫がされていると感じた。また実際にいじめの教材が取り上げられているだけではなく、防災観点でVRなど、子供たちが自分事として考えられるようなコンテンツが豊富な点を評価したい。

鈴木委員

東京書籍を提案したい。いじめのテーマが大事だと思っているが、1回聞いたからおしまいではなく、繰り返し提示する東京書籍の教材は評価できる。

光村図書も良いとは思った。生き方を問うというコンセプトはすごく大事である。今自分に問うというのは、宮川委員がおっしゃったように、自己内会話の中で、自分はどうするのか、その自分の考えを友達に伝え、伝えるだけではなく、他人の生き方を問うといったところは本当に素晴らしいコンセプトである。

尾崎委員

私も光村図書と東京書籍とですごく迷う。

光村図書の良いところは「道徳で学ぶ22のキーワード」。「見方を変えて」というところ、観点の投げかけになっている。いろいろな教材を通して、中学生としてどんな自分でありたいかを考えさせられる構成になっており、捨てがたいものがあると思った。

しかし、第一候補は東京書籍かと考える。対話的な学びとして、教材によってはロールプレイングを導入しており、新たな学習の進め方を提案している。さらには、コラムで学びが深まるどころ、また、教材の内容のバランスが良く、考え方について押し付け感がない点を評価したい。教科書の中に「つぶやき」という欄があるので、自分の感想をすぐにメモできる。

坂田教育長

本市の場合は子供たちにはしっかりといじめに向き合わせたいという願いがあるので、目次の中にいじめという言葉が記載されている東京書籍が光村図書に比べて好ましい。

いじめに関して以下のデータがある。国の学力調査を分析すると、8割の子供たちが「何があってもいけない」と答えている。一方、「人が困っているときにあなた助けることができますか」という問いに対しては、4割ぐらい落ちてしまう。このような分析から、ウエイトを置かなければいけない学習内容ではないかと考え、本市の実態に合う教科書は現行の東京書籍であると理解している。

国語 (2回目)

坂田教育長 2回目の議論に入らせていただきたい。2回目の議論については、特に付け加えてご発言をされたいという方からご意見をいただきたい。国語については光村図書と東京書籍が今のところ候補として挙がっている。特に何か付け加えたいということをご発言いただきたい。

宮川職務代理 光村図書の冒頭に学びのツールがきちんと整理されている。これは多くの教科書で使われているが、東京書籍はこの学びのツールについて、資料の中に書いてある。簡潔に言えば、光村図書の教科書の場合は各単元の前後に様々な資料あり、東京書籍の場合はそれらを結構まとめているということ。子供たちの学びと、資料をどのように活用するかと考えたときに、光村図書に加え、東京書籍についても考えほしい。

坂田教育長 1社に絞り込みが必要である。
教育委員会は合議制の機関のため、しっかりと合意を得たうえで、意思決定をしていきたい。挙手をしていただければと思う。光村図書と東京書籍のどちらを採択すべきか挙手により決定する。

光村図書：尾崎委員 鈴木委員 中村委員
東京書籍：宮川職務代理者
以上より第一候補は光村図書で決定する。

書写
(2回目)

坂田教育長 国語の教科書との整合を図る必要があるかどうかについて鈴木委員から説明を求める。

鈴木委員 小学校ほど整合性を感じるわけではなかったが、私としてはやはり合っていた方が何かの折には便利だと思う。

坂田教育長 東京書籍を挙げている宮川職務代理者、中村委員、教科書との整合について何かあればご発言いただきたい。

宮川職務代理 (異議なし)

中村委員 (異議なし)

坂田教育長 以上、これは決をとらず、書写の候補は光村図書で決定した。

地理・地図
(2回目)

坂田教育長 帝国書院と東京書籍が候補として挙げられている。地理と地図の整合を図る必要があるかどうかについて、尾崎委員より見解があればご発言いただきたい。

尾崎委員 特にはないが、学びやすさという観点で揃えてよろしいかと思う。

宮川職務代理 地図は、資料の活用、また活用の仕方を学んでいくのであり、その地理的な位置とかそういうことは知識あるので、そういうところを考えたときに、私はやはり教科書と地図は一緒の方が望ましいと考える。もち

ろん教科書の中にその地図の該当部分がわかりやすくなる。したがって、教科書と地図は一緒の出版社のものが良いのではないかと思う。

坂田教育長

先ほどの議論では帝国書院を提案される方が4名、宮川職務代理が並列的な取り扱いをされていた。宮川職務代理よりご意見がないようなので、合議ということで帝国書院を地理の第1候補とさせていただく。地図帳についても、東京書籍もアドバンテージが高いところはあるが、帝国書院を第1候補とさせていただきたい。

社会科（歴史・公民）について地理と地図は帝国書院が第1候補になっている、歴史公民を合わせる必要があるかどうかご意見を求めたい。

宮川職務代理

それほど重視する必要はない。

鈴木委員

整合性はなくてもそれぞれの教科をきちっと学べるものを選ぶのが良い。

中村委員

同意見である。

尾崎委員

同意見である。

坂田教育長

それでは歴史公民については、地理・地図に関わることなく採択するものとする。

歴史 (2回目)

坂田教育長

歴史については第1候補として東京書籍と職務代理者が帝国書院を挙げている。また鈴木委員は教育出版を挙げられている。それぞれの委員のご発言をいただきたい。

鈴木委員

第2候補としての教育出版の選出だったので、東京書籍についても良いとは思っていたので、合意できる。

宮川職務代理

先ほどお話したように、歴史を通してどのような力を身につけさせたいのかということで私は第1に東京書籍が評価できると思った。

坂田教育長

それでは歴史について東京書籍を第1候補とさせていただく。

公民 (2回目)

坂田教育長

第1候補として、東京書籍を挙げている。職務代理者が帝国書院を第1候補として挙げられているが、ご意見があればお願いしたい。

宮川職務代理

公民と歴史について、関連をさせて教えていくのが良いと思う。そういう意味では公民も東京書籍でよろしいかと思う。

坂田教育長

公民分野においても東京書籍を第1候補とする。

数学 (2回目)

坂田教育長

全員が東京書籍を候補として挙げている。東京書籍を第1候補とする。

理科
(2回目)

坂田教育長 議論は様々あったが、委員の方々は東京書籍を候補としている。こちらにも第1候補を東京書籍とさせていただく。

音楽一般
(2回目)

坂田教育長 音楽一般と器楽との整合を図ったうえで全員が教育芸術社を第1候補として挙げている。これは採択替えということになるが、後程議決を取りたい。

美術
(2回目)

坂田教育長 技術は議論が必要である。職務代理者を除いて、皆さん開隆堂を挙げていただいている。再度、皆様にご意見を伺いたい。

宮川職務代理 特に思春期の子供たちの様々な心理的な影響に対して、教育がどれほどの意義・価値・効果を持つのかという観点から考慮すると開隆堂も良いと思う。

尾崎委員 光村図書の美しいものに接するとか迫力とかワクワクする作りというのは、どうしても捨てがたい。しかし今回は皆さんの意見にも納得しているので、開隆堂さんでよい。ただ、もう少し説明を減らした表示の仕方を今後お願いしたい。

鈴木委員 紙のインパクトもあり、そういうところを踏まえていくとこれまで培ったものも生かした学びができる開隆堂で合意できるかなと思う。

中村委員 開隆堂でよい。

坂田教育長 それでは決を取ることなく開隆堂を第1候補とする。

保健体育
(2回目)

坂田教育長 保健体育も議論が必要になってくる。先ほどの議論で大修館、学研、東京書籍の3者が候補として挙げられている。

これについて特にご主張があれば挙手のうえご発言いただきたい。

尾崎委員 自分の専門が心の健康なので、その観点から見て学研は素晴らしい。特にストレスとどのようにつき合っていくのかというのは思春期の子供にとって非常に大切なこと。チェックリストを用いて丁寧にかつ簡潔に書かれているところに良さがあると思うが、総合的に考えると大修館になるのかなと思う。

坂田教育長 尾崎委員の発言内容は本市の課題である。そこにスポットを当て我々が議論をして、本市の課題を解決するものはこの教科書であるという理論であれば私は全く問題ないのではないかと思う。この点については是

非ご指導いただきたい。

宮川職務代理は東京書籍を第一候補として挙げていた。意見があればお願いしたい。

宮川職務代理
坂田教育長

(異議なし)

尾崎委員からは捨てがたいところがあるというお話をいただいた。教科書を採択するのはもちろん当然1社だが、採択されなかった教科書の内容をそのままコピーすることはできないが、ワークシート等を用いて学級に合ったかたちにアレンジして活用することは全く問題ない。そのような工夫があってよいと思う。冒頭に私からもお話したように、教科書には長所もあり短所もあるなかで、その教科書の一番良いところを使いながらすべての情報を使いながら子供たちを成長させていくという考え方が必要だと思う。是非校長会等でこの議論内容については発信をしていきたい。

保健体育については、大修館を第1候補とする。

技術・家庭
(2回目)

坂田教育長 技術家庭科については皆様が開隆堂、外国語については東京書籍、そして道徳は東京書籍を挙げる。この結果を受け、事務局から提案を求める。

大島教育部参事 事務局から、教科ごとの発行者について、先ほど候補に挙げたものを、ここで確認させていただきたい。

国語：光村図書、書写：光村図書、社会地理：帝国書院、地図：帝国書院、歴史：東京書籍、公民：東京書籍、数学：東京書籍、理科：東京書籍、音楽一般・器楽合奏：教育芸術社、美術：開隆堂、保健体育：大修館、技術家庭：開隆堂、外国語：東京書籍、道徳科：東京書籍

坂田教育長 事務局の案について、ご賛同いただける方は挙手をお願いしたい。

(全会一致)

坂田教育長 全員異議なしと認め、議案第17号令和7年度使用清瀬市立中学校教科用図書について原案のとおり採択する。

日程第 5 議案第18号 令和7年度使用清瀬市立小中学校特別支援学級教科用図書の採択について

大島教育部参事 議案第18号の提案理由としては、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」並びに「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、次年度の小中学校特別支援学級で使用する教科用図書に

について採択をしていただく必要があるため提出するものである。

坂田教育長

続けて大島参事より令和7年度使用清瀬市立小中学校特別支援学級教科用図書の採択にあたって実施した調査の概要及び経過についての説明をお願いしたい。

大島教育部参事

調査対象となる特別支援学級で使用する教科用図書について、中学校の特別支援学級における当該学年用の教科用図書については、東京都教育委員会より示されている教科用図書採択の手引きのとおり、通常学級で使用される当該採択地区で採択をされている教科用図書と同一のものを使用することとなっている。しかし、障害の程度によっては当該学年用の教科用図書を使用することが適当でないときは、当該学校の設置者の定めるところにより、他の適切な教科用図書を使用することができる。この場合、低学年用の教科用図書を使用することや、中学校の特別支援学級において、小学校用の教科用図書を使用することができ、また、文部科学省著作の教科用図書、いわゆる星本を使用することもできるとされている。さらに、障害の程度から教科により、当該学年用の教科用図書、または星本の使用が適当でないときに使用するものとして、一般図書がある。ただしこれらは、同一の児童または生徒に合わせて給与することは、二重給与に該当してしまうのでできない。学校は、児童生徒の障害の程度を踏まえて、今回採択をいただいた教科用図書の中から適切な教科用図書を選び給与の申請を行うことになる。

次に調査の概要について、本市では清瀬市立小中学校特別支援学級教科用図書採択要綱に基づき、教科用図書調査委員会を設置し調査を行った。学校ごとではなく、小学校用・中学校用のように、学校段階ごと、障害種別に調査を行い、報告書を作成した。これにより、学校では、これまでよりもさらに幅広く、児童生徒一人一人の障害の程度に応じて教科用図書を選択できるようになる。調査対象となった教科用図書は、先ほどご紹介した3種類であり、まずは文部科学省検定済み教科用図書である。すでに本市で採択されている市立小中学校で使用している教科用図書と同意するものとなる。次は文部科学省著作教科用図書である。これは知的障害方向けに、文部科学省が作成した教科用図書がある。小学校低学年用が星1つ、中学年用が星2つ、高学年用が星3つ、中学年用が星4つと5つとなっている。最後に一般図書だが、こちらは障害の程度に応じて検定済み教科用図書や文部科学省著作教科用図書では対応できない。児童生徒用として選択される。これまでも東京都教育委員会が作成している一般図書の一覧を基に選択をされている。

坂田教育長

審議に入る前に特別支援学級教科用図書調査委員会からの調査報告をお願いしたい。

宮野教育支援担当課長

初めに、自閉症情緒障害特別支援学級用の教科用図書です。自閉症情緒障害特別支援学級では知的障害のない児童生徒を対象としているため、各教科等の指導において通常の学級に準ずる内容を実施することと

なっており、文部科学省検定済み教科用図書を使用する。そのため先ほど採択いただいた中学校教科用図書及び現在使用している小学校教科用図書を使用することとなる。

知的障害特別支援学級用の教科用図書だが、こちらについては先ほどご説明させていただいた3種類を対象とした調査を行った。主に文部科学省著作教科用図書、いわゆる星本と一般図書について調査を行った。一般図書についてはこれまでも東京都の調査研究資料に記載された図書をもとに選択しており、その中からすでに使用実績のある一般図書について再度確認した。以上を踏まえ、特別支援学級教科用図書調査委員会において、本市の特別支援学級で使用される教科用図書について調査した結果、すべて使用に値するものとして判断した。

坂田教育長 ご意見・ご質問を受けたい。

(ご意見・ご質問なし)

坂田教育長 先ほど報告を受けたうえでご意見がなかったということなのでこの提案のとおり採択ということでよろしいか。
挙手をお願いします。

(全会一致)

坂田教育長 全員異議なしと認め、議案第18号令和6年度清瀬市立小中学校特別支援学級教科用図書について原案のとおり採択する。

日程第 6	報告事項 1 清瀬市立学校における食物アレルギー対応基準について
-------	----------------------------------

宮本学務担当 市では、これまで児童生徒それぞれに応じたアレルギー原因食材を取り除く部分除去対応を行ってきたが、令和7年度より安全性確保のため、国の対応指針の考え方を踏まえた原因食物の完全除去食対応を原則とする。調布市の死亡事故を踏まえ策定された平成27年3月、文部科学省の学校給食における食物アレルギー対応指針の大原則として、安全性確保のため、原因食物の除去対応を原則とする学校及び調理場の施設設備、人員等をかんがみ、過度な複雑な対応は行わない。教育委員会は食物アレルギー対応について、一定の方針を示すとともに、各学校の取り組みを支援することが示されている。そのため、市においても、学校におけるアレルギー食材除去対応を希望する児童生徒が増える中、子供たちの安全安心を最優先課題とし、アレルギー原因食材の食べられる量による調節や食材の加熱・非加熱による対応は行わず、アレルギー原因食材が完全に食べられるようになるまではアレルギー原因食材が使用される給食は提供しないこととする。今後は具体的な対応を示した対応指針マニ

ュアルを作成し、委員皆様にお示しさせていただきたい。

日程第 7	報告事項 2 清瀬市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（令和5年度外部評価）について
-------	--

大野教育企画課長 点検評価公表については6月26日開催、第6回教育委員会定例会において、報告事項として各事業の最終報告内容に対してご意見をいただいた。その後、7月23日に有識者である外部評価委員による意見をいただいた。各重点事業報告書の最下段に、外部評価委員意見欄に記述のとおり、点検評価に関わるご意見をいただいております、今後の事業実施に反映をしていく。また、資料後半には2名の外部評価委員から、総論としてのご意見をいただいております、今後の重点事業の選定、点検評価の仕組みに生かしていきたい。

坂田教育長 非常にタイトな日程のなかでご報告となったが、特に2点目については9月議会で議員報告の義務があるためである。

最後に皆様から一言ずつご意見、ご感想をちょうだいし、この会議を閉じることとする。

尾崎委員 中学校については、初めて採択のための調査研究を行ったが、どの教科書も見応えがあった。内容については先ほど議論を尽くしたと思う。

鈴木委員 中学校の教科書をこれだけ多教科にわたってしっかりと読み込んだというとまだまだかなと思う。目を通したがしっかりと読めなかったと反省する。今後、学校訪問に行く際に教科書をどのように使っているのかを見ていきたい。

中村委員 私も教科書の採択ということで初めてかかわらせていただいた。保護者の視点として各教科書を見させていただいたが、各社様々な工夫がされており、私が使っていたときの教科書と全く違うなというのが率直な印象である。内容についてもQRコンテンツなどがかなり充実しており、使いようによっては子供たちの興味関心を深掘りできるような内容になっていると感じた。

宮川職務代理 この議事録を学校管理職はじめ先生方にご覧いただきたいと思います。この場での議論を参考にさせていただくことで、学校ができることと、やるべきことが明確になる。是非、日々の教育活動に生かしていただきたい。

また、今回は一部改定ではあるとはいえ、内容や教材と題材が随分変えられ、工夫されていると感じた。先生方はそういった点を確認いただいて、授業に生かしていただきたい。QRコンテンツも増え、子供たちの学びが一層豊かになることを保護者にも伝えていく必要があるのではないか。

坂田教育長 ぜひこの採択の議論に興味を持っていただいて1人でも多くの市民の

方保護者の方々に教科書を手にとってみていただきたい。子供たちがどんなことを学んでいて、どんな見方をして、どんな力をつけようとしているのかということが教科書に凝縮されている。それは未来のまちをつくっていくエネルギーもなっていくはずだ。我々は教育を窓口にして、1人でも多くの市民の方々に、教育を支援いただけるよう、これからもしっかりと広報し、皆さんに教育のことをご理解いただけるよう尽力する。

閉会

坂田教育長が閉会を宣言

閉会 午前12時30分
令和6年8月23日

上記のとおり会議の顛末、大要を記し相違ないことを証する。

清瀬市教育委員会

教 育 長

教 育 委 員